



profile

くめしょうえん／東京大学薬学部卒業、同薬学修士、
帝人株研究員を経て、大阪大学理学系研究科博士課程
に進学。その後、指導教官の異動に従い東京大学
医科学研究所へ、博士(理学)号取得、JST、ERATO研
究員、一貫して初期発生の研究に従事した。1999
年より、ハーバード大学への留学を転機に、ES細胞
を使った、試験管内で臓器を再構築する研究に取組
んでいる。2002年より現職。2008年より熊本大学
学長特別補佐(男女共同参画担当)。
長男はすでに成人23歳、次男18歳。

Role Model

02

女性研究者が“研究しやすい” 環境づくりを目指して

桑 昭苑 熊本大学発生医学研究所教授

大学教員
留學
大学(研究員)
博士課程
企業(研究員)
修士課程
薬学部

Where there is a will,
there is a way.
意志さえあれば
必ずやり遂げられる

One day

- 6:30 起床、朝食の用意
- 8:00 大学へ
- 8:30 研究室
(研究・会議・学生指導)
- 19:00 帰宅→夕食の用意、家事など
- 21:30 パソコンに向かう
- 24:00 就寝



Shoen KUME

生物系(多能性幹細胞分野)

家族とともに渡った米国で 研究テーマに出会う

私は薬学部出身で、修士課程を修了した後はいったん企業に就職しました。しかし、夫が大阪大学大学院博士課程に入学したため、会社を辞めて私も夫と同じ大学で博士課程に進むことに。その後、家族全員でアメリカに渡り、ハーバード大学に3年間留学をいたしました。自然豊かな場所で子育てが出来たことや、現在の研究テーマに出合ったことなど、ここで得た経験は今でも宝ものです。

マウスのES細胞から すい臓細胞作製に成功!

現在、発生再生研究の最先端である『ES細胞』からインスリンを分泌するすい臓β細胞の前駆細胞を作り出す方法を研究しています。そこで培われた技術をもとに発生医学への応用を目指しています。どうしてすい臓ができるのか、その出口として「糖尿病の治療」があります。いまや日本人の6人にひとりが糖尿病かその予備軍と言われています。インスリンを作っているすい臓のβ細胞の再生が実現すれば、血糖値のコントロー

ルがしやすくなり、糖尿病で苦しんでいる方の負担を軽くすることができます。2013年12月には、マウスのES細胞から大量のインスリンを分泌するすい臓の細胞を作る技術開発に成功しました。しかしこの分野の研究は始まったばかりで、倫理的な問題や規制の問題など、乗り越えていかねばならない壁がいくつもあり、決してスムーズな道のりではありません。しかし今、世界中が期待している研究のひとつであることは確かです。

子育ての楽しさを夫と共有

同じ分野の研究者である夫は、同僚であり家族であり、子育てを共にやってきた同志です。子どもが小さい頃は突然の発熱や発病で、まるまる一ヶ月保育園を休むこともありました。実験を中断して保育園に駆けつけるなど、大変なことも多かったのですが、苦勞よりも楽しさを夫と共有できた喜びのほうが大きかったですね。2008年より、熊本大学学長特別補佐として『男女共同参画』を推進する役割も担っています。アプローチと



しては、子育て中の女性研究者を重点的にサポートする制度作りに取り組んでいます。例えば、育児・介護中の研究者に対する研究補助員を配置することにより育児・介護中でも研究を停滞せずに進めることを可能にする『研究補助者配置』。また『短時間勤務制度』の整備、『育児休業・介護休業』の取得や有給休暇の取得促進も全学的に進めているところです。

女子学生のみなさんが研究者になる頃には、さらに「女性が働きやすい環境」になっていると思います。ぜひ「何かを諦める」のではなく、回り道をしなくても前例がなくとも、やりたいことに向かって踏み出してください。「失敗から新しいものを見つけていくこと」、これも研究の、また人生の醍醐味です!



2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞なさった
京都大学の中山伸弥教授と研究室メンバーとともに